



会場の様子



体全体を使って筆をはしらせませす

日頃の練習の成果を発表

1月8日、カルチャーセンターで市教育研究会が主催する「伊達市小中学生書き初め大会」に、市内の小中学生120名が参加しました。

今年で42回目を迎えるこの催しは、制限時間内に、与えられた学年ごとの課題を清書した1枚を提出します。

審査委員長の高橋さんからの「墨をたっぷりつけて、体を使って紙面いっぱい書いてください。そして、名前まで丁寧に書きましょう」とのアドバイスを受け、課題をじっくりみたり立ちながら書いたりなど、一生懸命取り組む姿が見られました。

特賞、金賞、銀賞、銅賞、佳作が選ばれ、カルチャーセンターで展示されました。

第20回市民健康講座 「ちょっと気になる健康づくり」

1月17日、カルチャーセンターで伊達赤十字病院主催の第20回市民健康講座が行われました。

地域の皆さんに健康や医療への理解を深めてもらおうと開催しています。今回は昨年10月下旬、産婦人科医に着任した田熊医師が「出産は丈夫な赤ちゃんが生まれてお母さんが健康なことが一番」として帝王切開術を取り上げたほか、宮崎副院長による糖尿病勉強会と題した講演が行われました。参加者は、熱心にメモを取る様子などが見られました。



テーマ1「症例で理解する帝王切開術」

寒さの中、行進をする消防団員



伊達消防出初式 ～伊達消防120周年を迎えて～

1月10日、カルチャーセンターで伊達消防出初式が行われ、関係者が見守る中、消防団員168人が行進などを行い、平成27年の防災への心構えを新たにしました。

また、伊達消防が120周年を迎えるにあたり、大ホールでは、恒例の京王幼稚園幼年消防クラブや青龍一門伊達武者太鼓による演奏が花を添えるほか、伊達消防の変遷と題して、発足から今までの伊達消防の活動をスライドで紹介しました。

刀鍛冶伝統行事「初打ち」

1月11日、黎明観刀鍛冶工房で、「初打ち」が行われました。

これは、刀工などの職人が今年1年の安全を祈願し、仕事を清める新年の伝統儀式で、市民ら約100名が見学しました。

神事後、炉に火が入られ、日本刀の材料として使われる玉鋼を真っ赤に焼き、鎚で打つ作業が行われ、打つたびに飛び散る火花や「バン！」という迫力ある音に、見学者からは歓声が上がりました。



厳粛な雰囲気の中、儀式が進められました

思わず「難しいな～」との声が…



健康な体を維持するために -はつらつ倶楽部-

1月6日、市総合体育館で市が主催する介護予防事業「はつらつ倶楽部」が始まり、20名が参加しました。

これは、トレーナーや理学療法士が体力維持のために必要な運動などを実践・紹介するものです。

この日は、担当者から介護予防の必要性の説明を受けたあと、「握力測定」や「片足立ち」など、体力測定を実施。普段行わない運動に苦勞しながらも、笑顔を交えながら取り組んでいました。



伊達中学校サッカー部 フットサルで全国大会出場

1月10から12日、愛知県で行われた「第20回全日本ユース（U-15）フットサル大会」に伊達中学校サッカー部が出場しました。

去年の夏、惜しくも中体連北海道大会では第3位で三連覇を逃した悔しさをバネに初めて手にした切符です。出発前、市長への出陣報告をしたときに「勝ったり負けたりは当たり前。それを繰り返しながら成長して」と市長から激励を受けました。

結果は、リーグ戦で1勝1敗1引き分けだったため、残念ながら決勝トーナメント戦への出場は叶いませんでしたが、初めての全国大会は、一回り大きく成長する糧になったようです。



初戦前に会場で撮影



市長から激励を受けるサッカー部員